主題　他我の心を自覚し，自己の生き方に対する考えを深める道徳学習

副主題　道徳の時間と生活をつなぐ「わたしたちの道徳」の活用を通して

志免町立志免東小学校
教諭　氏名　中牟田いずみ

こんな手立てによって…

道徳の時間の目的を資料の読み取りとしていた児童に，道徳の時間と生活をつなぐ意図をもって，各段階に「わたしたちの道徳」を積極的に活用したことによって

こんな成果があった！

道徳の時間に資料中の主人公の気持ちを他我の心で推し量り，主人公のようになりたいという自己の生き方に対する考えを深める児童を育むことができた。

１　考えた

児童の多くは，道徳の時間に主人公の気持ちを考えることはできるが，主人公の気持ちと自分を重ねて考えたり，主人公のように自分もその想いを膨らませていきたいと考えたりするまでにいたっていなかった。それは，それまでの道徳の時間が，副読本の資料中の登場人物の気持ちを読み取っていくような流し方になりがちであったことが理由の一つに考えられた。

そこで，道徳の時間を，児童にとって自分を見つめ，自分も主人公のようになりたいという心を膨らませる時間とするために，「わたしたちの道徳」を授業の事前・事後，導入・終末などに活用した授業構成の工夫をし，道徳の時間と生活をつなぐ方法を究明することは大変意義深いと考えた。

２　やってみた

昨年度，小中学校に配布された「わたしたちの道徳」を以下のように活用した。

ア「わたしたちの道徳」を一単位時間の導入と終末に活用

（導入）他我を見つめる準備としての自分を見つめる問い

（終末）価値の深化を図るコラム，生き方に対する考えを深める書き込み

イ「わたしたちの道徳」を一単位時間の事前・事後に活用

（事前）他我や自己の生き方を見つめる書き込み

（事後）道徳の時間と生活をつなぎ自己の生き方に対する考えを深める書き込みや手紙

このような活用と共に資料選定や発問の工夫をすることによって，主人公と自分を重ねて考え，自分も主人公と同じように人を想う心を膨らませたいと願う児童を育むようにした。

３　成果があった！

一単位時間の導入や終末，事前・事後に「わたしたちの道徳」を取り入れて，道徳の時間と生活をつなぐように活用すると，主人公の考えを自分の中に見つけ，それを膨らませたいと願う児童が，４学年は５０％増えて９８％，６学年は２０％増えて９７％になった。つまり，主人公から他我の心を自覚し，自己の生き方に対する考えを深める児童をそだてることができたといえる。

＜目次＞　学校教育部門作品

主題　他我を自覚し，自己の生き方に対する考えを深める道徳学習

副主題　道徳の時間と生活をつなぐ「わたしたちの道徳」の活用を通して

１　主題設定の理由 ･･･ ３
（１）児童の実態と道徳授業の反省から･･･ ３
（２）社会的背景から･･･ ３

２　主題の意味 ･･･ ４
（１）他我の心とは･･ ４
（２）他我の心を自覚するとは･･･ ４
（３）他我の心を自覚し，自己の生き方に対する考えを深めるとは･･････････････ ４
（４）道徳の時間と生活をつなぐ「わたしたちの道徳」とは･･････････････････ ５

３　研究の目標 ･･･ ５

４　研究の仮説 ･･･ ５

５　研究の構想
（１）「わたしたちの道徳」の活用の工夫 ･････････････････････････････････ ５
（２）生き方に対する考えを深めるための児童の実態に応じた資料選定の工夫･････ ６
（３）自己の生き方に対する考えを感得するための深める問いの工夫･･････････ ７
（４）研究構想図･･･ ７

６　研究の実際 ･･･ ７
（１）授業実践１ ･･ ７
（２）授業実践２ ･･１１
（３）授業実践３ ･･１５

７　成果と課題 ･･･２０
（１）児童の実態の変容より考察･･２０
（２）研究の成果と課題 ･･･２０

＜参考文献＞ ･･２０

＜本文＞　学校教育部門作品

主題　他我を自覚し，自己の生き方に対する考えを深める道徳学習

副主題　道徳の時間と生活をつなぐ「わたしたちの道徳」の活用を通して

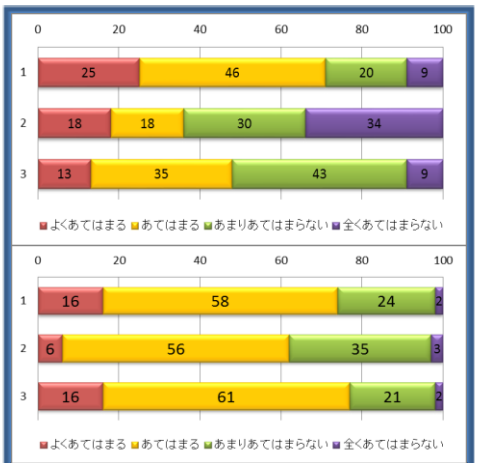
所属名　　志免町立志免東小学校
職名　教諭　氏名　中牟田いずみ

１　主題設定の理由

（１）児童の実態と道徳授業の反省から

児童の多くは，これまでの道徳の時間に資料の中の主人公の気持ちを考えようと，学習プリントに自分の考えを記入したり，その考えを発表したりすることができている。しかし，その主人公の行いと自分を重ねて考えたり，主人公のようになりたいという道徳的実践意欲を高めたりするまでに至っていない。（資料１）

それは，道徳の時間の持ち方として，中学年であれば共感的に資料を読むが，主人公の気持ちの変化を読み取ることを目的とするような流し方にしており，児童の中にある道徳的価値を自覚するまでに至っていなかったり高学年であれば資料の人物が偉大であり，その気持ちを推し量るまではできても，遠い存在の主人公と自分を結びつけた考えを持つまでに至っていなかったりするためと考える。



① 道徳の時間に資料の主人公の気持ちを考える。（他我の心）
② 主人公の気持ちを自分の中にも見出すことがある。（他我の心の自覚）
③ 主人公の気持ちを自分も膨らませたいと考える。（生き方に対する考えを深める）

【資料１】実践前の児童の実態（各５月）
（上：４学年 40 人，下：６学年 38 人）

これらの実態から，「わたしたちの道徳」が読み物資料だけでなく，自分や家族の想いを書き込む部分も付加され，道徳的価値について自ら考えるきっかけをつくることができるようになっていることを生かし，その活用方法を究明することは道徳の時間と生活をつないで，資料を自分のこととして理解し，自己の生き方に対する考え方を深める児童を育てる上で意義があると考える。

（２）社会的背景から

昨年度，すべての小中学校に届けられた「わたしたちの道徳」の趣旨について，文部科学省は「心のノート」を全面改定したものであり，児童生徒が道徳的価値について自ら考え，行動できるようになることをねらい作成した道徳教育用教材であると説明している。

このような教材が作成されるようになった過程には，様々な道徳教育の課題があったためとされるが，その一つに，道徳の時間の在り方として，児童生徒がその時間に何を学んだのか印象に残るものになっていないことが挙げられている。つまり，今後は，児童に資料から自分の中に見出すべく価値をはっきりと感じ取らせる授業をする必要性が強く求められるといえる。

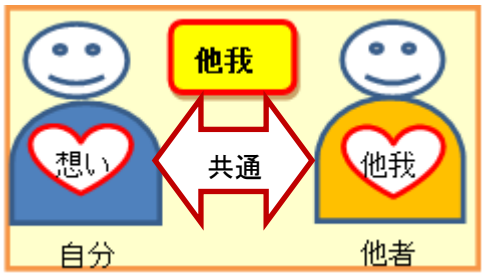
こういった必要性の中で作成された「わたしたちの道徳」は，特に①児童生徒が道徳的価値や規範意識について自ら考え，実際に行動できるようになることに資する内容とする②「道徳の時

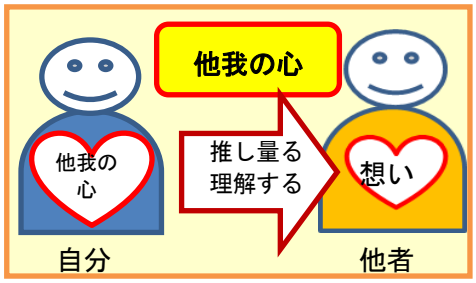
間」の授業においてより活用しやすい内容・構成とすることなどを基本的な考え方としている。（道徳教育の充実に関する懇談会より）

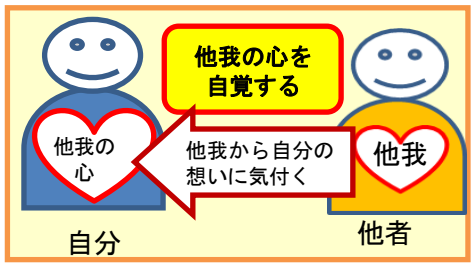
このような「わたしたちの道徳」を道徳の時間に活用する方法を究明することは，資料中の主人公を自分と重ねながら価値を感得し，自己の生き方に対する考え方を深める児童を育てる上で大変意義深いと考える。

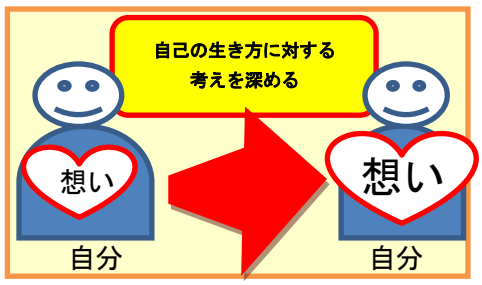
２　主題の意味

（１）　他我の心とは









他我とは，<u>他者の心の中にある自分と共通する想いのこと</u>である。想いは自分の心の中にのみあるため，どんなに身近な人であっても，自分以外の想いを知ることはない。そのために，他者の考えていることは，他者の言葉から知り，受け止めることしかできない。しかし，他者の言葉を聞いたり読んだりせずとも，理解することがある。それは，他者の心の中には，自分の心の中と同じ想いがあると解せたときであり，それができたとき他者の想いを推し量ることができる。

このように，他者の心を推し量ることができるのは，<u>他者の心の中にも自分と同じような想いがあると理解できる**他我の心**が自分の中にあるため</u>と考える。

この**他我の心**の働きによって，児童は，資料中の登場人物の気持ちを推し量ったり，生活の中で他者の気持ちを理解できたりするといえる。

（２）　他我の心を自覚するとは

他者にも自分と共通する想いがあると理解する心を**他我の心**とすると，**他我の心**は，これまでの自分の似た経験から得た感情から他者の想いを推し量って理解する心といえる。逆に，他者の想いを理解できたときには，その想いを自分ももっているからこそできたと解すこともできる。これまで自分の中にあると気付かずにいた想いを他者の心の中の他我として気付くことができたときは，自分も同じ想いを持っていると自覚できたといえる。つまり，**他我の心を自覚する**とは，<u>他者の行為の理由やその行為を支える想いを推し量ったり理解できたりしたとき，その想いが自分の中にも共通して存在することに気付くこと</u>をいう。

これによって，児童は資料中の登場人物の想いや生活の中の他者の想いに共感し，自分の中にも同様の想いを発見することができると考える。

（３）　他我の心を自覚し，自己の生き方に対する考えを深めるとは

他我の心を自覚した自分は，自分の心を見つめ直し，自分の中にも同様にあるその心を，<u>他我をもった相手のようにまで育てたいと思う感情</u>が生まれる。このように，これまでの自分の生き方を支えていた心や考え方について改めて考え，これまでの自分の生き方を<u>少しでも相手の生き</u>

方に近づけたいと想い，そのように想いを膨らませることを**自己の生き方に対する考えを深める**とする。

（４）道徳の時間と生活をつなぐ「わたしたちの道徳」とは

【資料 2】「わたしたちの道徳」

昨年度より,「心のノート」に代わり「わたしたちの道徳」（資料２）がすべての小･中学校に届けられた。文部科学省は，この趣旨について児童生徒が道徳的価値について自ら考え，実際にできるようになることをねらいとして作成した道徳教育用教材であると説明している。そのため,「わたしたちの道徳」は，学習指導要領に示す内容ごとに読み物部分と書き込み部分とで構成されており，道徳の読み物資料だけではなく，書き込み部分には児童生徒が日常的に自分の生活を振り返って考えを書くことができたり，家庭に持ち帰り家族からの言葉を書き留めることができたりする。つまり，学ぶべき価値を焦点化し，さらに読み物資料と自分や家族の想いをつなぐ役割を果たせるのである。これらの構成により,「わたしたちの道徳」を次のように活用することができると考える。

① 「わたしたちの道徳」を事前や導入に活用し，これから見つめるべき価値を焦点化し，課題を持つ。つまり，見つめるべき他我への見通しをもつ。

② 「わたしたちの道徳」を終末や事後に活用して道徳の時間と生活をつなぎ，資料中の主人公の想いから他我の心を自覚し，自己の生き方に対する考えを深める。

３ 研究の目標

道徳の時間の学習において，資料から他我の心を自覚して自己の生き方に対する考えを深める児童が育つことを目指して，道徳の時間の事前・事後，導入・終末における「わたしたちの道徳」の活用方法を究明する。

４ 研究の仮説

道徳学習において，以下のような手立てを工夫すれば，他我の心を自覚し自己の生き方に対する考えを深める児童が育つであろう。

① 「わたしたちの道徳」の活用の工夫
② 生き方に対する考えを深めるための児童の実態に応じた資料選定の工夫
③ 自己の生き方に対する考えを感得するための深める問いの工夫

５ 研究の構想

（１）「わたしたちの道徳」の活用の工夫

① 学習過程の工夫

ア 導入や終末に活用

【導入】読み物資料
「わたしたちの道徳」による
見つめるべき他我の把握

→

【展開】副読本
主人公のもつ価値に対する想いの膨らみの感得

→

【終末】読み物資料
「わたしたちの道徳」による
道徳の時間と生活のつなぎ

イ　事前や事後に活用

【事前】書き込み資料
「わたしたちの道徳」による
見つめるべき他我の把握

→

【本時】「わたしたちの道徳」
自己の生き方に対する考えを
見つめ直す

→

【事後】書き込み資料
「わたしたちの道徳」による,自己
の生き方に対する考えの深まり

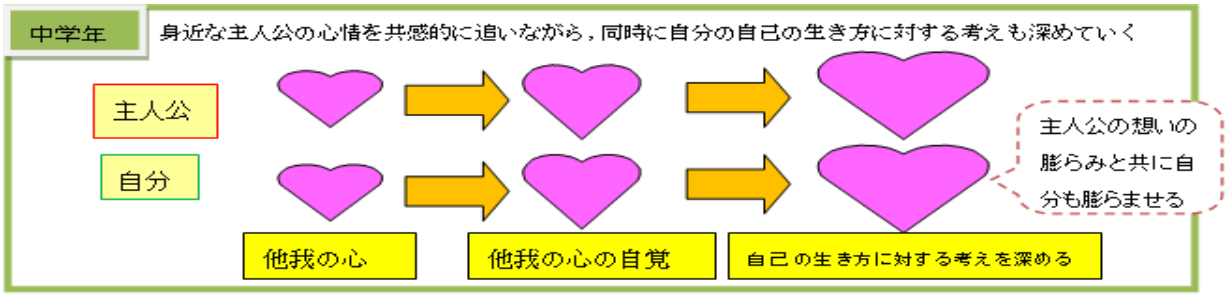
② 「わたしたちの道徳」の学習過程における手立て

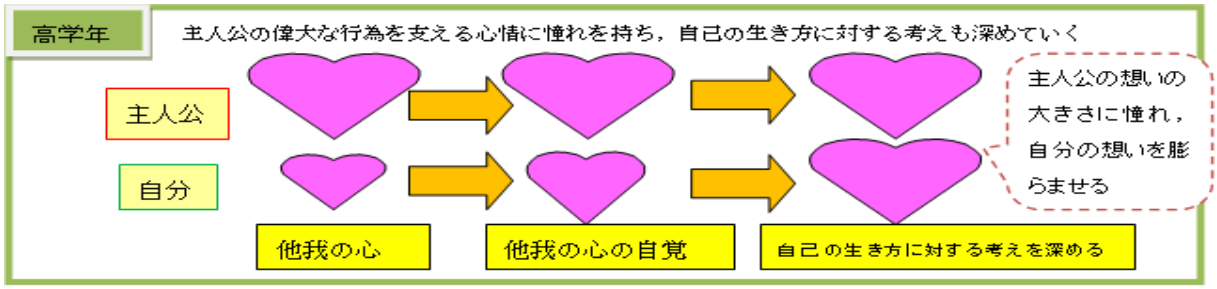
以下のように，各段階において活用を工夫する。

授業過程	*具体的な手立て*
事前	**自己の生き方に対する考えを見つめるための「わたしたちの道徳」の活用** ・　自己の生き方に対する考えの深まりを実感できる読み物資料選定と分析 ・　見つめるべき他我を把握するためのインタビューや記述
つかむ	**自己の生き方に対する考えを見つめるための「わたしたちの道徳」の活用** ・　他我を把握するためのキーワード確認 ・　自己の生き方に対する考えを見つめる問い
うみだす	**他我の心の自覚を深めるための「わたしたちの道徳」の活用** ・　主人公へ他我の心を働かせるための深める問い ・　主人公の生き方に対する考えの深まりを視覚的にとらえられる構造化された板書
ひろげる	**自己の生き方に対する考えを深める「わたしたちの道徳」の活用** ・　価値を感得するためのキーワード ・　自己の生き方に対する考えを見つめ直す書き込み
事後	**深まった自己の生き方に対する考えを持続するための「わたしたちの道徳」の活用** ・　コラムや読み物資料による価値の深化 ・　自己の生き方に対する考えが深まった自分を実感する記述や手紙

（２）　生き方に対する考えを深めるための児童の実態に応じた資料選定の工夫

道徳の時間に用いられる読み物資料を選択する際は，児童の実態に即したものや身につけさせたい価値に迫ったものに考慮する必要がある。価値に対する児童の感じ方や考え方などを分析し，どのようにすれば児童に他我の心を自覚させることができるのかを検討し，資料を選定することが大切である。それは，児童の実態や発達段階に応じることでより，効果が上がると考える。

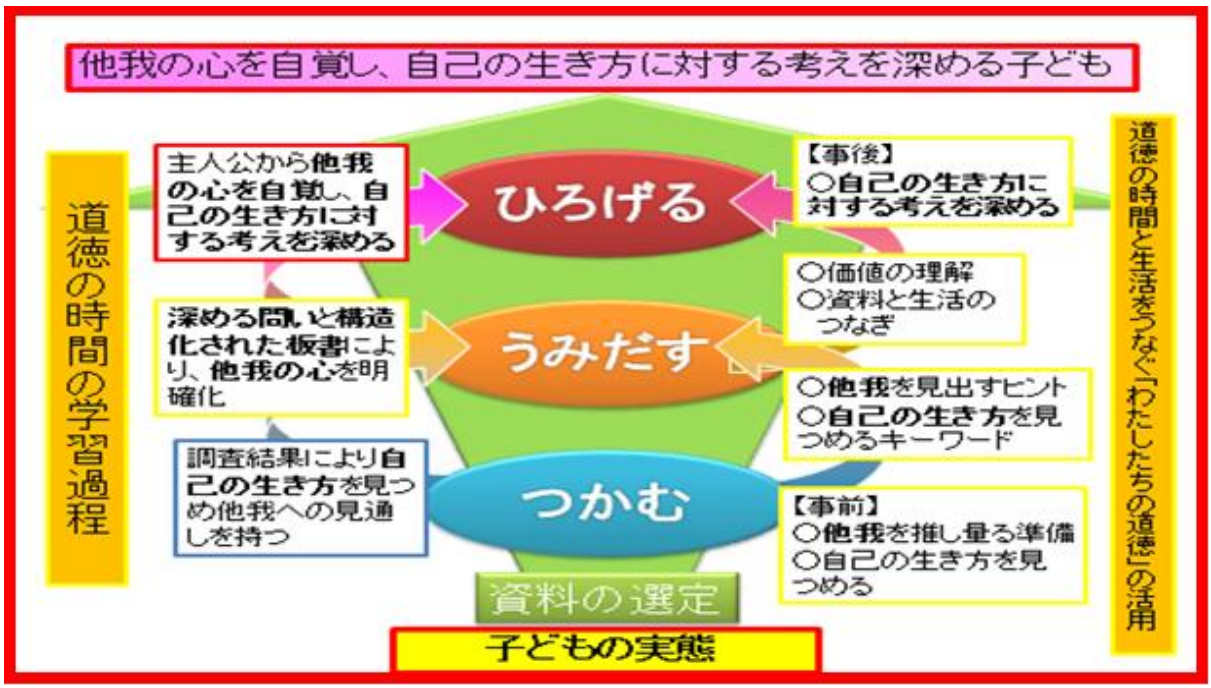




（３） 自己の生き方に対する考えを感得するための深める問いの工夫

○ 価値に迫る問い
○ 主人公の，他我の心に着目させるための問い
○ 主人公の，生き方に対する考えの深まりに気付くための問い

（４） 研究構想図



６ 研究の実際

（１）授業実践１

平成 26 年度 第 4 学年 1 組 主題名：互いに助け合う 2－(3)
資料名：「とべないホタル」（東京書籍）

①本時の展開

資料の概要	本資料は，生まれつき羽が縮れてとぶことができない主人公の「とべないホタル」が，とべる友達を羨み一人ぼっちでいるときに，ホタルを捕まえに来た人間の児童から友達が自分を守ってつかまってくれたことを知り，自分は一人ぼっちではないことや自分の欠点を補ってくれた友達のやさしさに気付くことができ，さらには自分もその友達のためにできることを精一杯しようという気持ちを膨らますというものである。友達とは，一緒に戯れ遊ぶだけの相手のことではなく，互いの欠点や困っていることを理解し合い，助け合っていくことが互いの関係を深めることができるという友達の価値を感得できるものとして意義深い。	
目標	(1)困っている友達がいるときは，相手の事を理解し自分のできる限りのことをして助けようとする心が動く。 (2)友達とは，助けてもらうばかりではなく，自分も助けたいと想う相手のことで，互いに助け合うことが大切であるということがわかる。	
	学習活動	手立て
つかむ	1 友達がいてよかったと思ったことについてのアンケート結果と**「わたしたちの道徳」**のキーワードによりめあてをつかむ。	○価値内容に関する事前アンケートの結果を提示 ○**「わたしたちの道徳」**の問いかけによるめあての提示
	もっと友達と仲良くなるためにどうすればよいか考えよう	

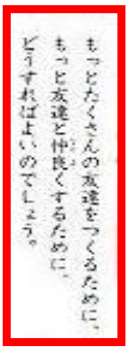
うみだす	2　資料「とべないホタル」をもとに主人公の行為や心情を交流し，価値に迫る。 (1)とべないホタルが他のホタルのとぶ様子を見つめていた時の気持ちを話し合う。**〔同質性の追求〕** (2)目に涙をいっぱいためたとべないホタルの気持ちを話し合う。　**〔他我の心の自覚〕** (3)捕えられたホタルを迎える用意をするためにかけまわるとべないホタルの気持ちを話し合う。 **〔自己の生き方の考えの深まり〕**	○自信がなく一人でいるホタルの気持ちに共感させる**深める問い**。 「みんなの所にいったらいいのでは？」 ○主人公が友達の思いを理解し，**他我の心**を自覚する流れを板書に残す。 ○友達のためにせっせと働くホタルの気持ちに共感させるための**深める問い**。 「とべないから役に立たないのでは？」
ひろげる	3　本時で学んだ価値が自分自身の中にあることに気付き，その価値を膨らませる。 (1)**「わたしたちの道徳」**を読み，友達づくりには互いに助け合うことが大切であることに気付く。 (2)　互いに助け合った経験を書いた代表児童の作文から他我の心を自覚する。	○**「わたしたちの道徳」**にある「助」「友」の漢字の成り立ちの意味を知る。 ○アンケートによる友達とのエピソードの中から経験を発表させることで，自分の中にある友達を想う心を自覚させ，その心を膨らませる。

② 指導の実際

つかむ段階

ねらい　**友達がいてよかったと思ったことのある経験を，アンケートの結果を通して振り返った後，「わたしたちの道徳 P. 70」によりその想いを強化し，めあてづくりができる。**

まず，事前にとったアンケートをもとに，友達がいてよかったと思ったときの経験を発表させた。「わたしたちの道徳」のP. ７０に自分たちの経験と似たことが紹介してあるとわかり，P. ７０の「もっと友達と仲良くするためにどうすればよいのでしょう。」という問いかけからめあてをたてた。（写真１）



【資料 3】
「わたしたちの道徳」P. ７０

【写真 1】「わたしたちの道徳」とめあてをつなぐ板書

【考察１】

つかむ段階では，児童は「友達ともっと仲良くなりたい」という想いをもって，本時の目的を共有できた。それは，事前アンケートを取って，友達がいてよかったと思った経験を振り返り，そう思わせてくれる友達がいることを実感できたため，資料３の「わたしたちの道徳」の問いかけに対して，自分の想いと重ねることができたからだといえる。（写真２）

「わたしたちの道徳」を机に開き，読む児童の写真

【写真 2】「わたしたちの道徳」でめあてをつかむ児童

うみだす段階

ねらい　**友達が自分のことを想ってくれていることに気付いたとべないホタルが，自分も友達のために何かしたいという想いを膨らませたことを他我の心で推し量ることができる。**

ア　同質性の追求

まず，一人ぼっちでいる「とべないホタル」の気持ちに共感させた。資料４のＴ１のように発問すると，自分を悲観する気持ちが多く出たため，深める問いとして，Ｔ２のように切り返した。すると，友達を信じきれない主人公の気持ちに寄り添う発言に深まった。

T1：とべないホタルは，楽しげにとび回っている友達をどんな気持ちで見ていたのでしょう。
C1：どうして自分だけとべないのだろう。
C2：なんでぼくの羽だけ縮れているの。
T2：とべなくても，みんなの所に行ったらいいのではないの？
C3：みんなの所に行ったら馬鹿にされるかもしれない。
C4：恥ずかしい。　【資料４】

【考察２】

ここでは，とべないホタルの友達を疑う気持ちに共感させることができた。それは，資料４の

Ｃ３やＣ４の友達の想いを決めつけて，友達を理解しようとしていないホタルの気持ちを表した発言からわかる。自分を悲観するホタルの気持ちを表した発言に対し，とべないホタルが自分から一人ぼっちでいることを選んでいることに気付かせた前頁資料４のＴ２のような深める問いが有効であったためと考える。

イ　「主人公の他我の心」の自覚

まず，自分の身代わりになった友達を見て涙をいっぱい浮かべたときのとべないホタルの気持ちを考えさせた。すると，感謝や反省を表す気持ちが返ってきた。そこで，資料５Ｔ２のように深める問いを行うと，友達の自分への想いの気付きに目を向けた発言に変わった。

【考察３】

ここでは，とべないホタルが自分のことを心配してくれている友達の本当の想いを理解したことに，児童が気付くことができた。つまり，とべないホタルが友達の心を理解する他我の心を働かせたことに，児童が気付いたといえる。それは，資料５のＣ３やＣ４のような発言からわかる。最初はとべないホタルの反省した想いに偏った発言がでてきていたが，Ｔ２のように，主人公が友達に対してどのように想っているかを考えさせるための深める問いを行ったことが有効だったためと考える。

T1：涙をいっぱい浮かべたホタルはどんな気持ちだったと思いますか。
C1：ぼくのためにつかまってくれた。感謝。
C2：大切な友達を犠牲にしてしまった。
T2：馬鹿にされそうと思っていたけれど，どうだったの？
C3：みんなは，馬鹿になんてしていなかった。
C4：みんなは大切に想ってくれていた。
【資料５】

ウ　「主人公の生き方に対する考えの深まり」の感得

最後に，自分の代わりにつかまってくれた友達を迎える準備をしているときのとべないホタルの気持ちを考えさせた。子どもたちの多くは，資料６のＣ１のような友達への感謝の気持ちを述べていた。そこで，Ｔ２，Ｔ３のような深める問いを行うと，Ｃ４やＣ５のような発言に変わった。

T1：せっせと友達を迎える準備をしているとべないホタルの気持ちを考えましょう。
C1：早く帰ってこないかな。お礼を言いたいな。
C2：謝らなければいけない。
T2：謝りたいだけ？どうしてせっせと働いているの？
C3：僕を助けてくれた友達のためにがんばらなくちゃ。
T3：とべないから役に立たないんじゃないの？
C4：役に立たないかもしれないけれど，あのホタルのためにがんばりたい。
C5：一生懸命にやれば，あのホタルのためになる。
【資料６】

【考察４】

ここでは，とべないホタルが，友達を想う心を膨らませたことをとらえさせることができた。それは，資料６のＣ４やＣ５のような，他我の心を自覚したとべないホタルが，助けてくれた友達のように，友達のために何かせずにはいられないという想いが膨らんでいることに児童が気付いた発言をしていることからわかる。これは，深める問いが有効であったためと考える。

ねらい　**友達の想いに気づき，自分も主人公のように友達を想う心を膨らませ，友達のために何かできることをしていきたいという心が動く。**

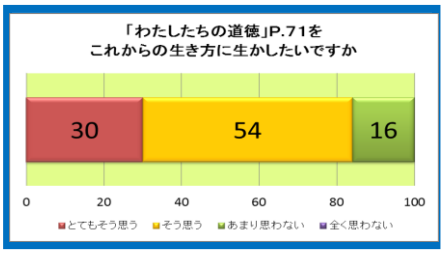
ひろげる段階

「とべないホタル」から学んだ，友達と仲良くなるために大切な「助け合う」「分かり合う」というキーワードについて，「わたしたちの道徳」のＰ．７１で確認した。「助」「友」の漢字の成り立ちから，友達は助け合う関係にあるということを意味づけした。（資料７）

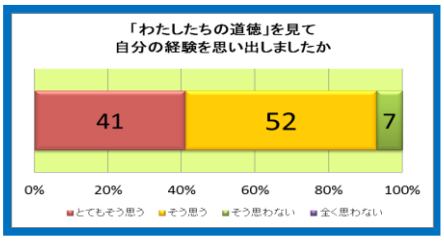
【資料７】「わたしたちの道徳」Ｐ．７１

【考察５】

資料８は，この段階で「わたしたちの道徳」P. ７１を生活に生かしたいと考えた児童の割合である。８４％の児童が自分の生き方に生かしたいと考えを深めたことがわかる。これはひろげる段階で「わたしたちの道徳」を活用したことで，児童が資料と自分をつないで考えることができたためといえる。



【資料 8】「わたしたちの道徳」P. 71 を生活に生かしたいと思う割合

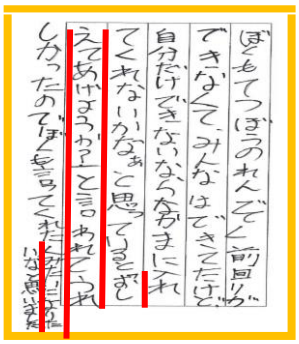


【資料 9】「わたしたちの道徳」の活用により経験を想起した割合

③　実践１考察

ア「わたしたちの道徳」の活用の工夫

資料９は，つかむ段階で「わたしたちの道徳」の活用により経験想起をした割合を表したものである。９３％の児童が経験を思い出したと答えており，有効であったことがわかる。さらに，ひろげる段階においての活用については，資料８のように，児童が資料を読み取るだけで終わらせず，生活に生かそうとしているといえる。つまり，「わたしたちの道徳」は，道徳の時間と生活をつなぎ，自己の生き方に対する考えを深める上で有効であったことが明らかになった。



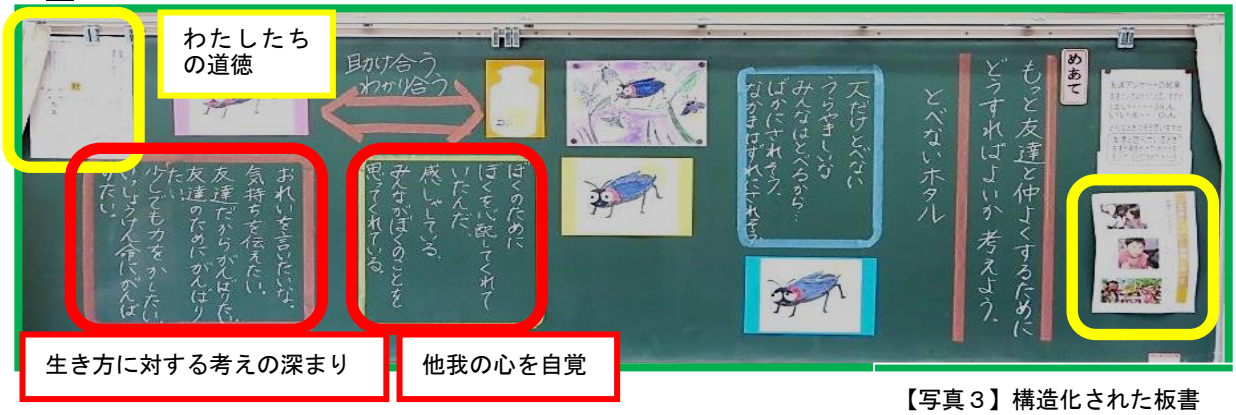
【資料 10】友達を想う心を膨らませる児童の感想

イ　資料選定の工夫

資料１０は，ひろげる段階の最後に書いた児童の感想である。主人公と自分を重ね，「友達を信じられずにいたが，友達を理解して自分もその友達のようになりたい。」と思ったことがわかる。つまり，主人公と同じように友達の心の中に他我を見つけ，他我の心を自覚し，自分も友達を想う心を膨らませたいと実感しているということができる。生活の中での身近な友達との関係性を想起しやすい「とべないホタル」の資料を選定したことで，児童の他我の心を自覚させることができたといえる。

ウ　深める問い

深める問いについては，児童に主人公の他我の心や，生き方に対する考えを深めていることに気付かせるため各段階で行ったことで，児童の気付きや思考の深まりを実現でき，写真３の板書でもみられるような，主人公の深まった考えを，児童の他我の心で理解させることができたといえる。



【写真３】構造化された板書

（２）授業実践２

平成 26 年度　第４学年１組　　主題名：家族みんなで協力し合って　４－（３）
資料名：「ブラッドレーの請求書」（文部科学省「わたしたちの道徳」）

① 本時の展開

資料の概要	ブラッドレーがお母さんに「お使いちん１ドル・おそうじした代２ドル・音楽のけいこに行ったごほうび１ドル　合計４ドル」という請求書を渡し，その代金をくれたので喜びながら，代金と一緒に置かれたお母さんからの一枚の請求書を見てみると，「親切にしてあげた代０ドル・病気をしたときのかん病代０ドル・服やくつやおもちゃ代０ドル・食事代と部屋代０ドル」と書いてあり，これを見たブラッドレーは涙を流し，お母さんにお金を返して「僕にも何かさせてください。」と言う内容である。 本資料から，家族が自分のためにしてくれているのは，ただひたすら自分を大切に想ってくれているからこそのものであることに気付き，家族の一員として家族を愛し，何か役に立ちたいという想いを持つという家族愛の価値を感得し，道徳的価値にせまることができると考える。	
目標	(1) 家族の一員として，家族のためにできることを精一杯していこうとする心が動く。 (2) 親が子どもを何よりも大切に想っていることに気付き，自分も家族のためにできることをしたいと想うことが家庭を明るくするとわかる。	
	学習活動	手立て
事前	○家族に自分に対する想いを，**「わたしたちの道徳」**の項目にしたがってインタビューをする。	○家族にインタビューをして，**「わたしたちの道徳」** P. 136～P. 137 に書き込ませる。 ○**「わたしたちの道徳」**P. 136～P. 137 のコピーをした用紙に，児童への想いを家族が直接書き込む依頼をして収集する。
つかむ	１**「わたしたちの道徳」**による家族へのインタビューと事前アンケートの結果をもとに，これまでの家族とのかかわりを想起し本時学習のめあてについて話し合う。 家族への想いをふくらませよう	○価値内容に関する事前アンケートの結果を提示 ○**「わたしたちの道徳」**のインタビューをもとに家族の想いを想起させる。**（他我への見通し）**
うみだす	２ 資料「ブラッドレーの請求書」をもとに家族愛についての価値について話し合う。 (1) お母さんに請求書を書いてお金を受け取った時のブラッドレーの気持ちについて話し合う。 **〔同質性の追求〕** (2) お母さんからもらった請求書を見て涙をいっぱいにしたブラッドレーの気持ちについて話し合う。　**〔主人公の他我の心の感得〕** (3) お母さんに「お金を返します。」と言った時のブラッドレーの気持ちについて話し合う。 **〔主人公の生き方に対する考えの深まり〕**	○お母さんの気持ちとブラッドレーの気持ちを対比させた板書により，他我と主人公の想いを比べやすくさせる。 ○他我の心を自覚して，お母さんを想う心を膨らませるブラッドレーの気持ちに共感するための**深める問い。** **「お母さんのどんな想いに気付いたの」** ○お母さんへの想いを膨らませるブラッドレーの心の動きに共感させるための**深める問い**。 **「お金を返すだけでよかったのでは？」**
ひろげる	３ **「わたしたちの道徳」**の家族からのメッセージを読み，家族を想う心を膨らませる。 (1) 家族からのメッセージを読み，家族の自分への想いを確かめる。 (2) 家族への膨らんだ想いを**「わたしたちの道徳」**に書き込む。	○事前に依頼していた，**「わたしたちの道徳」**のコピーをした用紙に家族から書いてもらったメッセージを読ませる。 ○家族への膨らんだ想いを**「わたしたちの道徳」**に書き込ませる。
事後	○**「わたしたちの道徳」**を家庭に持ち帰り，家族から返事をもらう。 ○自分のできることを家族のためにする。	○**「わたしたちの道徳」**P. 174 に家族からの返事をもらってきて，さらに，家族を想う心を大きく膨らませるようにする。

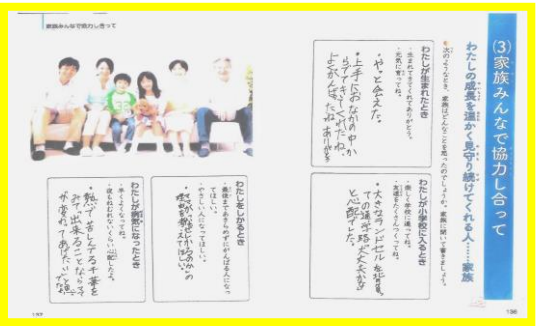
② 指導の実際

事前

児童に家族へのインタビューをさせた。資料１１のように，「わたしたちの道徳」P. １３６～P. １３７の項目にしたがって家族に質問をさせ，記入させた。

【考察６】

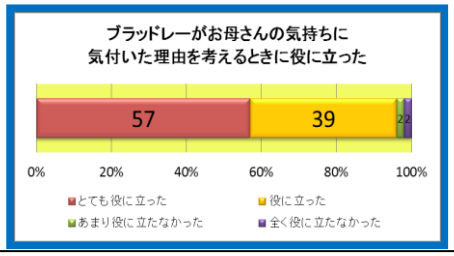
次頁の資料１２は，インタビューが「本時学習に



【資料 11】児童が家族にインタビューをして記入した「わたしたちの道徳」P. １３６～P. １３７

生かされた」と答えた児童の割合である。９６％の児童がその有効性を実感している。

これは，親という立場を経験したことのない児童にとって，導入の家族の想いや資料中の「お母さん」の想いを推し量る際に，事前に「わたしたちの道徳」で家族の想いを直接聞いていたことを思い出して，考えたり発言したりできたためと考える。つまり，「わたしたちの道徳」を事前に活用したことは有効であったといえる。



【資料 12】インタビューをした有効性を実感している割合

つかむ段階

ねらい　**家族が自分にしてくれているときの想いと，自分が家族を喜ばせるためにしたときの想いを比べ，それぞれの想いには違いがあることに気付く。**

まず，事前アンケートによる「家族にしてもらっていること」「自分が家族を喜ばせたこと」について，確認し，互いに支え合う存在であることに気付かせた。しかし，家族と自分たちの想いには違いがあることにも気付かせ，「家族への想いをふくらませよう」とめあてをたてた。

机の上に「わたしたちの道徳」のインタビューのページを開き，家族の想いを想像している写真

【写真４】「わたしたちの道徳」のインタビューを見ながら家族の想いを想像する児童

【考察７】

この段階においては，家族と自分の想いのずれに気付かせることができた。これは，一つは事前の家族へのインタビューを使って家族は，「家族を大切に想う心」で自分たちにいろいろとしてくれるということに気付いた発言をすることができたこと（写真４）や，一つは「みなさんがテレビを見ているときに何か頼まれたらどうですか？」などの深める問いをしたことで，自分の都合を優先させてしまうこともあるという発言を児童がしたことなどからわかる。これらは児童が自分の不十分さに気付き，「家族を想う」他我を持った家族のようになりたいという課題を持つ上で有効であったといえる。

うみだす段階

ねらい　**ブラッドレーが，お母さんの自分への深い愛情に気付き，家族のためにできることをしたいという想いを膨らませたことを他我の心で推し量ることができる。**

ア　同質性の追求

まず，お母さんに請求書を出したブラッドレーの気持ちに共感させた。資料１３のＴ１のような発問をすると，Ｃ１～Ｃ４のように，主人公に共感しながら，都合よくいったことを喜ぶ発言をしていた。

T1：4 ドルが置いてあったのを見てブラッドレーはどんなことを思ったでしょう。自分だったら？
C1：やった。うまくいった。みんなもお金をもらうとうれしいですよね。だからブラッドレーも喜んだ。
C2：このお金，どう使おうかな。わたしも，自分のために使いたくなるから，そう思う。
C3：今まで，手伝ってよかった。お金をもらったから，またやりたいと自分も思う。
C4：うまくいった。次は倍にして書こう。うまくいったら，またもらえると思うから　【資料 13】

【考察８】

ここでは，資料１３のように，自分と重ねてブラッドレーの気持ちを推し量る姿，つまり，他我の心で主人公の気持ちに共感している姿が多くみられた。Ｃ１～Ｃ４のような自分と重ねた発言からわかる。請求書通りの４ドルをお母さんから受け取ることができたブラッドレーの気持ちを自分と重ねて考えるように促したことが有効であったと考える。

イ 「主人公の他我の心」の自覚

まず，資料１４のＴ１のように問いかけ，学習プリントに考えを書かせて発言させた。しかし，後悔や反省の言葉が多く，お母さんの想いに気付く発言が出なかった。そこで，Ｔ２～Ｔ４のような深める問いをした。すると，資料１４のＣ７のような親が子を大切に想うことに気付いた発言に深まった。

T1：涙でいっぱいになった時，ブラッドレーはどんなことを思っていたでしょう
C1：どうしよう。お母さんはこんなに頑張っているのに。
C2：わるいことをしてしまった。
T2：ブラッドレーはお母さんのどんな想いに気付いたの？
C3：僕のことを想ってくれていること。
C4：お母さんはいつも笑顔で僕のことだけを考えてやってくれている。
T3：なぜ０ドルなのでしょう。
C5：まだ子どもだから払えない。
T4：子どもだから？お金がないから０ドルなの？
C6：自分の子どもだからかわいいし，なんでもやってあげたい。。
C7：お母さんの請求書は，子どものためなら何でもやってあげるという暗号のようなもの。　【資料 14】

【考察９】

ここではお母さんのブラッドレーに対する深い愛情に気付かせることができた。つまり，ブラッドレーが他我の心を働かせてお母さんの気持ちを理解したことに，気付かせることができたといえる。それは，涙で目をいっぱいにしたブラッドレーの気持ちを，初めは反省や後悔で答える児童が多かったのだが，資料１４のＣ３やＣ４のような，お母さんが自分の事を想ってくれているということに気付いたという発言や，さらに，Ｃ６やＣ７のような，お母さんがブラッドレーの事を何よりも大切に想っているという深まった発言をしていることからわかる。これらは，資料１４のＴ２～Ｔ４のような深める問いをしたことが有効であったと考える。

二人が向かい合ってペアになり，互いに意見を言い合っている写真

【写真 5】ペア交流をする児童

ウ「 主人公の生き方に対する考えの深まり」の感得

まず，「お金を返します。」と言ったブラッドレーの気持ちを，ブラッドレーへの共感の強化のためにペア交流をさせて考えさせた（写真５）。そして資料１５のＴ２・Ｔ３といった深める問いをして，お母さんを想う心を膨らませたブラッドレーの気持ちに着目させると，Ｃ６のような発言に深まった。

T1：どんなことを思ってお金を返したのでしょう。
C1：お母さんにお礼がしたい。
C2：ごめんなさいという気持ちを伝えたい。
T2：お礼がしたい，謝りたいだけなら，お金を返すだけでよかったよね。
C3：4 ドルはもともとお母さんのお金だし，お金ではなく何かもっと他のことで返したいと思った。
C4：お母さんがいろいろしてくれているから自分は今ここにいる。お母さんのために何かしていきたい。
T3：小さいから何もできないんじゃないの？
C5：できる限りのことをしてあげたい。
C6：できる限り全力を尽くして，お父さんやお母さんの手伝いをして少しでも楽にしてあげたい。【資料１5】

【考察１０】

ここでは，ブラッドレーが「お母さんに自分も何か返していきたい。」というお母さんへの想いを膨らませていることをとらえさせることができた。それは，資料１５のＣ５やＣ６のように，家族を何より大切にしてくれるお母さんのようになりたくて，自分も家族のために全力でがんばっていきたいという想いまで高まった発言からわかる。深める問いが有効であったといえる。

ひろげる段階

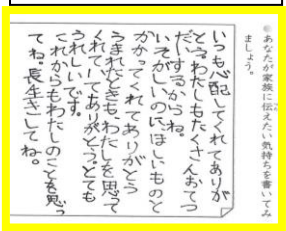
ねらい	自分も家族から何よりも大切に想われていることを実感し，明るい家庭を築くために，家族のために何かしたいという想いを膨らませる。

まず，児童が自分も家族から何よりも大切に想われていることを実感するために，「わたしたちの道徳」P. １３６～P. １３７のコピーに書かれた家族からの手紙（次頁資料１６）を読ませた。

【資料 16】「わたしたちの道徳」のコピーに書かれた家族からの手紙

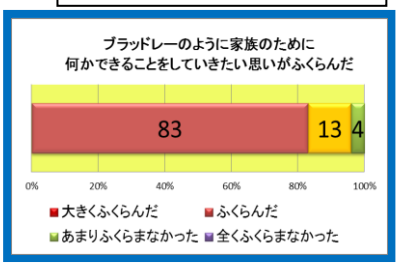
「わたしたちの道徳」のコピーに書かれた家族からの手紙を読んで涙を流す児童の写真

【写真 6】家族からの手紙に涙を流す児童



【資料 17】終末に「わたしたちの道徳」に書かれた家族に伝えたい気持ち

最後に「家族のために何かしたいという気持ちになりましたか？」と問いかけ，「わたしたちの道徳」に家族に対する想いを書かせた。（資料１７）



【資料 18】家族からの手紙によって家族を想う心が膨らんだ児童の割合

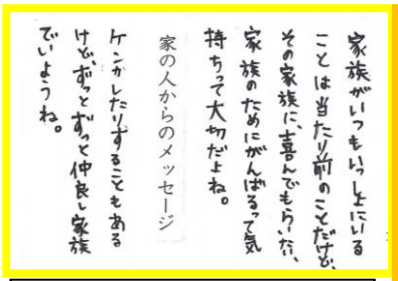
【考察１１】

資料１８は，家族からの手紙を読んで，自分も家族から大切にされていることを実感し，何かできることをしていきたいという想いが膨らんだ割合である。９６％の児童が，その想いを実感している。それは，写真６の涙を流しながら手紙を読む児童の姿や，資料１７の「わたしたちの道徳」P.１４１に書き込んだ児童の膨らんだ想いからもわかる。

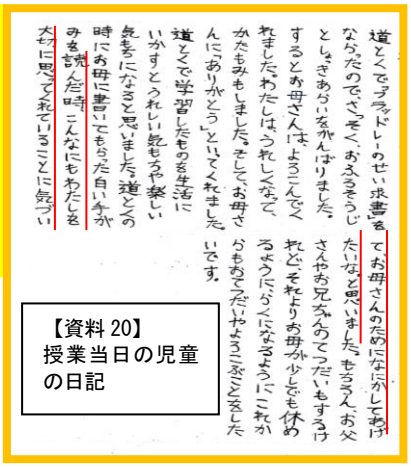
手紙は資料１６のように事前に児童がインタビューに使った「わたしたちの道徳」P.１３６～P.１３７をコピーしたもので，改めて家族に直筆で書いてもらうよう依頼して用意したものであるが「わたしたちの道徳」をコピーして用途を変えて活用することは，児童が家族への想いを膨らます上で大変有効であったといえる。

事後

授業後，児童には家族のためにがんばりたいことを書いた「わたしたちの道徳」を持ち帰らせ，家族に読んでもらった。そして，それに対して「わたしたちの道徳」P.１７４に返事を書いてもらった。



【資料 19】
「わたしたちの道徳」P.174 に書かれた家族からのメッセージ



【資料 20】
授業当日の児童の日記

【考察１２】

授業で膨らんだ家族への想いを実際に家族に伝え，資料１９のような家族からの返事をもらうことでさらにその想いを膨らませることができた。それは，資料２０のように，児童の書いた事後の日記からわかる。

③ 実践２考察

ア「わたしたちの道徳」の活用の工夫

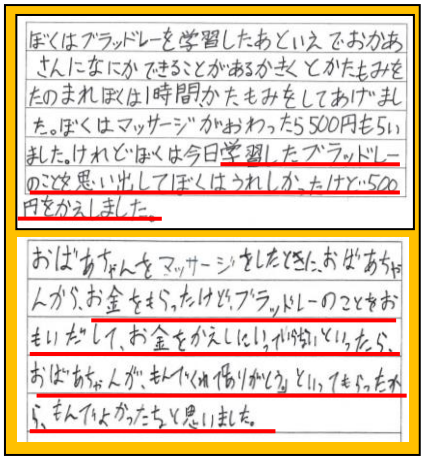
１２頁資料１２は，事前に「わたしたちの道徳」を用いて家族にインタビューをしたことが授業で家族の気持ちを推し量る際に役に立ったと９６％の児童が感じていることを表しており，有効であったことがわかる。

また，前頁資料１８は，ひろげる段階で家族からの手紙を読んだことで，主人公のように家族を想う心が膨らんだ割合である。９８％の児童が実感しており，有効であったことがわかる。

このように，「わたしたちの道徳」は，道徳の時間と生活をつなぎ，資料中の登場人物の他我を推し量ったり，自分も主人公のように家族を想う心を膨らませたいという想いにまで高めたりすることができるということが明らかになった。

イ 資料選定の工夫

資料２１は，「ブラッドレーの請求書」の学習をした１か月後の児童の感想である。主人公のブラッドレーと自分を重ね，お金のためではなく家族のためにできることをしていきたいという想いを持続させていることがわかる。つまり，この資料は他我の心を自覚し，自己の生き方に対する考えを深める上で大変有効であったといえる。


ぼくはブラッドレーを学習したあとえでおかあさんになにかできることがあるかなくとかたもみをたのまれぼくは1時間かたもみをしてあげました。ぼくはマッサージがおわったら500円もらいました。けれどぼくは今日学習したブラッドレーのことを思い出してぼくはうれしかったけど500円をかえしました。

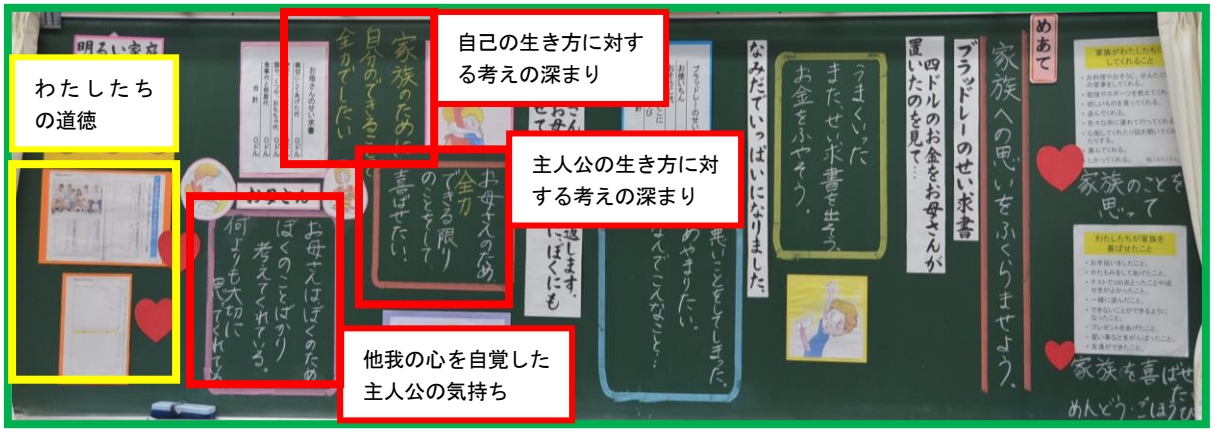
おばあちゃんをマッサージをしたときにおばあちゃんから、お金をもらったけど、ブラッドレーのことをおもいだして、お金をかえしたいっていったら、おばあちゃんが、もんでくれ有りがとうといってもらったから、もんでよかったなと思いました。

【資料 21】１か月後の児童の感想

ウ 深める問い

写真７は，主人公が家族を想う心を膨らませていく過程を構造化した板書である。中央に板書してあるのが「家族のためを想ってできる限りのことをしたい。」という主人公の想いである。

これは，「お母さんのために何かさせてください。」とまで言った主人公に対し，「お金を返すだけでよかったのでは？」という深める問いをした後に児童が答えたものである。主人公の生き方に対する考えが深まったこの想いを深める問いで導いたことは，自己の生き方にも生かしたいと想いを膨らませるために大変有効であったと考える。



【写真７】構造化された板書

（３）授業実践３

平成２７年度　第６学年１組　　主題名：公正・公平　４－（２）
資料名：「すあしにサンダルの天使～マザーテレサ～」（光文書院）

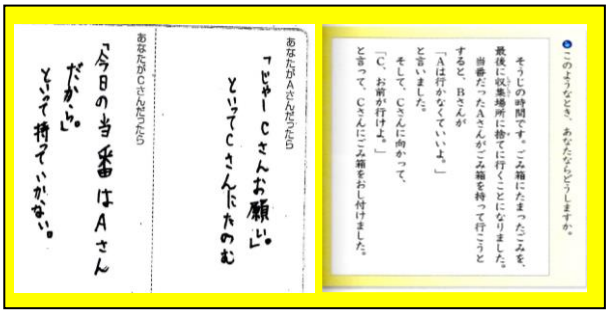
①　本時の展開

資料の概要	本資料は，マザー・テレサが幼いころからの修道女になる夢を叶え，貧しい人の中の最も貧しい人たちのために働く決意をする場面から始まる。テレサは「子どもの家」「死を待つ人の家」などをつくり，どんな人も愛で包みこみ，献身的に働く。そのことが世界中で知られるようになり，ノーベル賞を授賞するが，その賞でさえも「世界の貧しい人の代表としていただく。」と言い，人の平等性を貫いたという話である。 だれもが同じかけがえのない一人の人間である公正・公平の価値を感得できるものとして意義深い。	
目標	（1）偏った見方や考え方をしている自分に気付き，人の価値を決めつけずにいつでも誰に対してもやさしくしようとする心が動く。 （2）いつでも誰に対してもやさしく接するには，人をかげがえのない一人の人間として大事にすることが大切ということがわかる。	
	学習活動	手立て
事前	○周りの人に対して，偏った見方や接し方をしてしまう自分を思い起こすために，**「わたしたちの道徳」P.１３４**の事例について考え，記入する。 ○「誰に対しても」「どんなときも」人にやさしくできるかについて，アンケートで答える。	○事後にも同じページを考えられるよう，P.１３４をコピーしたものを使う。 ○アンケートの項目を「誰に対しても」「いつでも」の２点に絞って尋ね，子ども達の偏った見方や接し方に気付けるようにする。
つかむ	1　アンケート結果と，**「わたしたちの道徳」P.132** の下段にある呼びかけの文章を読むことから，偏った見方や接し方をしている自分を想起しめあてをたてる。	○ 価値内容に関する事前アンケートの結果を提示 ○「わたしたちの道徳」の下段部分を活用し，児童の生き方に対する考え方を見直させる。**（他我への見通し）** ○「わたしたちの道徳」P.１３３のマザー・テレサを紹介し，生活と道徳の時間をつなぐ。
	いつでも誰に対してもやさしく接するためにはどんな心が大切かを考えよう	
うみだす	2　資料「素足にサンダルの天使」をもとに，公正・公平の価値について話し合う。 (1)「すあしにサンダル」の話でマザー・テレサの素晴らしい行為について話し合う。 (2)マザー・テレサがなぜ，このような行為ができたのか，話し合う。　**〔他我の心〕** (3)マザー・テレサの生き方から学んだことについて話し合う。 **〔自己の生き方に対する考えを深める〕**	○資料を範例的に活用し，テレサの素晴らしい行いを発表させるときに，公正・公平の価値に沿って考えられるよう，場面ごとにタイトルをつけておく。 ○マザー・テレサの一人の人間を何よりも大切にする想いの深さに気付かせるための**深める問い**。 **「全く知らない人なのに，どうしてここまでできるの？」** ○見つけたテレサのすばらしい生き方を**「わたしたちの道徳」P.１３２の文言とつないで考えさせる。**
ひろげる	3　マザー・テレサの生き方を，自分の生き方にどのように生かすのかを考える。	○アンケートで答えたときの自分の生き方とマザー・テレサの生き方を比べながら考えさせる。 **（自己の生き方に対する考えを深める）**
事後	○**「わたしたちの道徳」P.１３４の偏った見方や接し方**について改めて考え，「わたしたちの道徳」に直接書き込む。	○学んだ生き方を**「わたしたちの道徳」P.１３４**の事例で生活場面を想起させ，**自己の生き方に対する考えをさらに実践力にまで深め**させる。

②　指導の実際

事前

資料２２のように，「わたしたちの道徳」P.１３４の事例について，自分が事例の立場になって考えさせた。



【資料 22】「わたしたちの道徳」P.１３４の問いに対する児童の考え

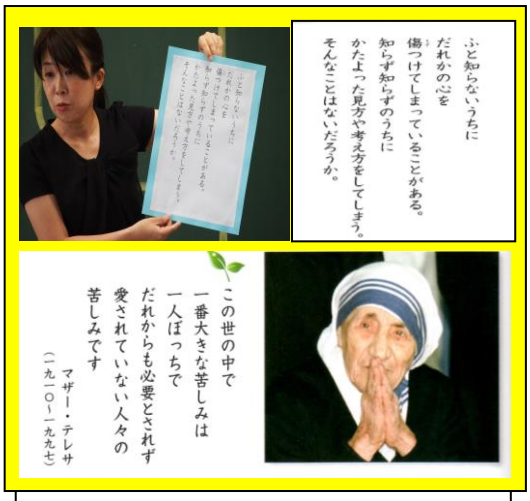
【考察１３】

ここでは実際に起こりうるような場面における自分の生き方を想起することができた。P.１３４の「あなたならどうしますか」という問いかけから，Ｂの差別した態度に対してＡやＣの立場に立って自分だったらどう接するかという考えを確かめるために有効であった。

つかむ段階

ねらい	**自分自身を振り返り，人にやさしくすることができるが，「いつでも」「誰に対しても」はできていないことに気付くことができる。**

まず，アンケートによる「いつでも，誰にでも優しくできますか」という質問について経験を交流し，人に対してやさしくしたことはあるが，自分の都合が悪いときや知らない人に対してできないことがあることを確認した。その原因を考える際に，「わたしたちの道徳」P.１３２にある問いかけから自分を見つめ直し，めあてをたてた。そして，めあてを解決するための読み物資料は，P.１３３の「マザー・テレサ」の生き方が紹介してあるものであることを伝えた。（資料２３）



【資料 23】「わたしたちの道徳」P. 132，P. 133

【考察１４】

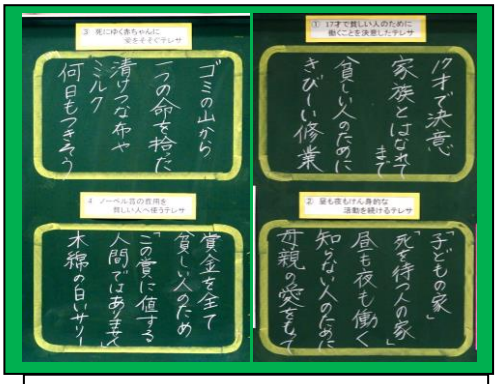
ここでは，自分の心にある偏った見方や考え方に気付かせ，めあてをたてることができた。これは，アンケートでやさしくしたことのある経験を想起させた上で，「いつでも」「誰に対しても」という深まりを求めると，そこまではできていない自分について見つめ直すことができ，さらにその原因として，「わたしたちの道徳」P.１３２にあるような，人に対する偏った見方や考え方をしてしまっているのではないかという想いを引き出すことができたためと考えられる。さらに，読み物資料に入る前に，P.１３３のマザー・テレサを紹介したことは，自分の課題と資料をつなげる上で有効であったと考える。

うみだす段階

ねらい	テレサのいつでも誰に対してもやさしくできるすばらしい生き方がわかり，その基にある一人ひとりがかけがえのない人間であるという考え方を他我の心で推し量る。

ア　「主人公の生き方」の感得

まず，資料を範例的に活用し，マザー・テレサの素晴らしい行為について交流させた。４つの場面のテレサの生き方について考えさせると，写真８のような行為を価値づけた発言をした。このとき，自分と重ねながら考えさせ，素晴らしさの根拠を明らかにさせた。



【写真８】児童が価値づけたテレサの行為

【考察１５】

ここでは，主人公の素晴らしい行為を確認させることができた。自分だったらその行為をするのは難しいと考えたことで，主人公の小さなしぐさや一言の重みにも気付くことができたといえる。

イ　「主人公の生き方に対する考え」の感得

まず，資料２４のＴ１のように問いかけた。児童はＣ１～Ｃ３のように答えていた。そこでＴ２の深める問いをして，主人公の素晴らしい行為を支える公正・公平な心について焦点化して考えさせた。

T1：なぜ，テレサはこのようなことができたのでしょう。
C1：困っている人を助けたい。
C2：せっかく生まれてきた命。最後まで一生懸命に育ってほしい。
C3：命の重さは皆同じ。
T2：知らない人なのに，しかも，とってもつらいことなのになぜここまでできたの？
C4：貧しいからといって，この人は助ける，この人は助けないとかではない。
C5：老若男女，みんなが幸せになってほしい。
C6：みんな普通に生活しているのに，食事すらできないで死ぬ人がいるなんておかしい。貧しい人を少しでも助けて幸せな人生だったと想ってほしい。　【資料２４】

【考察１６】

ここではテレサの一人を大切に想う深い愛情に気付かせることができた。つまり，児童が他我の心を働かせて主人公のもつ公正・公平の心に気付かせることができたといえる。前頁資料２４のＣ４やＣ５のような公正さや，Ｃ６のような公平さなどをテレサが大切にしていたことに気付いた発言をしていることからわかる。

これらから，前頁資料２４のＴ２の深める問いをしたことが有効であったと考える。

ウ「主人公の生き方に対する考え」の深まり

めあてを振り返り，「いつでも」「誰に対しても」やさしくするためにはどのような心が大切なのかを考えさせた。そして，「わたしたちの道徳」P.１３２を紹介し，そのメッセージにある「だれもがみんな同じかけがえのない一人の人間」という考え方と同じであることを確認した。

T1：「いつでも，誰に対してもやさしくできるために大切な心」ってどんな心だろう。
C1：誰もが幸せになってほしいと思う心
C2：誰もが大切にされるべきと思う心
C3：一人ひとりを大切にする心
T3：「わたしたちの道徳」に，今みんなが考えたようなことが書いてあります。読みましょう。
【資料２５】

「わたしたちの道徳」P.１３２を開いて，読む児童の写真

【写真 9】「わたしたちの道徳」を読む児童

【資料 26】「わたしたちの道徳」P. 132

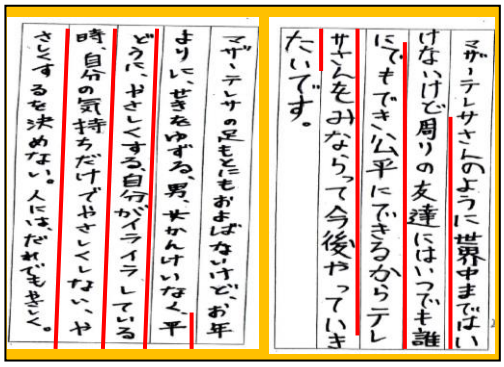
【考察１７】

ここでは，いつでも，誰に対してもやさしくするためには，一人ひとりをかけがえのない人間として接していくことが大切であることを理解させることができた。それは，資料２５のＣ２やＣ３のように一人を大切にすることに気付かせた後に，「わたしたちの道徳」にある文言から，一人を「かけがえのない人間」と想うことが大切である（資料２６）ことを確認したことで，公正・公平についての考えを深めることができたと考える。（写真９）

ひろげる段階

ねらい	自分にもテレサと同じように，いつでも誰に対してもやさしくしたいという気持ちがあることに気付き，自己の生き方に対する考えを深める。

児童に，自分にはできないという想いで終わらせないために，「テレサのようには今はできないかもしれないけれど，少しでも自分にできそうなことはありますか。」と問いかけ，プリントにその想いを書かせた。児童は，自分にできることを考え，やさしく接する相手をまずは身近な人から少しずつ広げたいことや，自分の都合で接し方を変えるのではなく，いつでもやさしくできるようになりたいという願いなどを書いていた。


マザーテレサさんのように世界中まではいけないけど周りの友達にはいつでも誰にでもでき、公平にできるからテレサさんをみならって今後やっていきたいです。

マザーテレサの足もとにもおよばないけど、お年よりに、せきをゆずる、男、女かんけいなく、平どうに、やさしくする自分がイライラしている時、自分の気持ちだけでやさしくしない、やさしくするを決めない。人には、だれでもきく。

【資料 27】児童の感想

【考察１８】

この段階では，主人公から他我の心で自覚した，公正・公平の心をどのように膨らませていくかについて考えることができた。それは，前頁資料２７ような児童の感想からわかる。「自分にできそうなことがありますか」という発問が，他我の心を自覚する上で有効であったと考える。

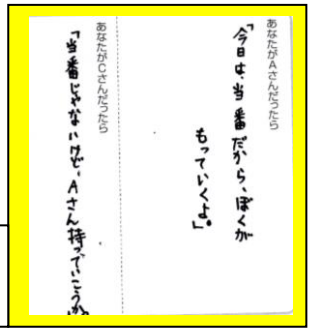
事後

授業後，事前にも考えた「わたしたちの道徳」のP.１３４ について再考させた。

【考察１９】

最後には，児童が，道徳の時間と生活をつなげ，自己の生き方に対する考えを深めていることを確かめることができた。それは，１６頁資料２２の児童が資料２８のように，事前と事後に想いを変容させていることからわかる。

この児童に限らず，全員が公正・公平の価値のもと，変容させていた。このことから，児童が，道徳の時間と生活をつなげて考えることができていることを確認するために，「わたしたちの道徳」の書き込み資料を繰り返し使うことは，有効であるといえる。



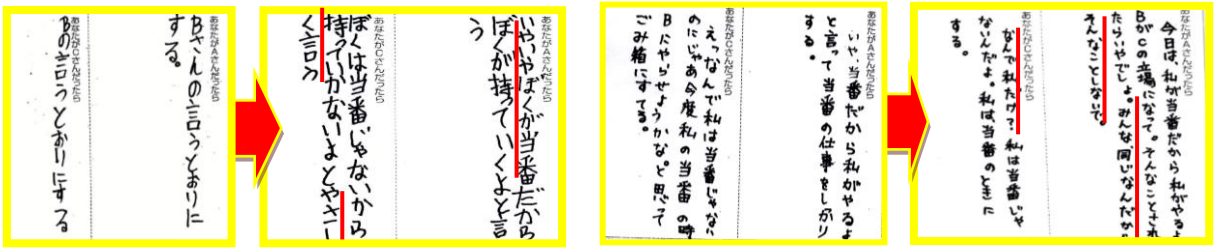
【資料 28】「わたしたちの道徳」の問いかけに対する考え

③　実践３考察

ア「わたしたちの道徳」の活用の工夫

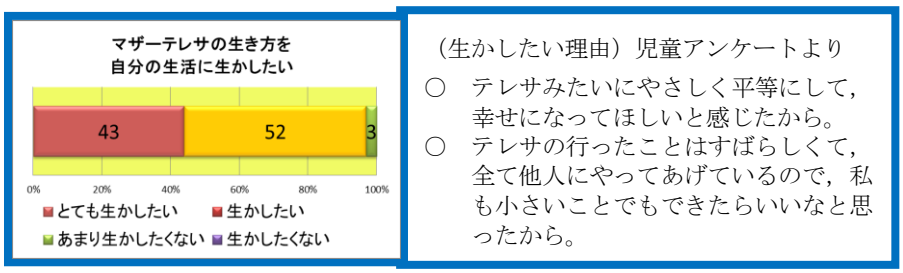
資料２９は，事前・事後に「わたしたちの道徳」の質問に答えた児童の考えである。事前と事後の内容に変容があることがわかる。主人公のような公正・公平な心に近づきたいという想いが込められている。児童が，「わたしたちの道徳」にある，身近な生活に起こりそうな場面について，事前と事後に考えることは，自己の生き方に対する考えが深まっていることを実感する上で，大変有効であるといえる。

【資料 29】「わたしたちの道徳」の問いかけに対する考えの変容



イ　資料選定の工夫

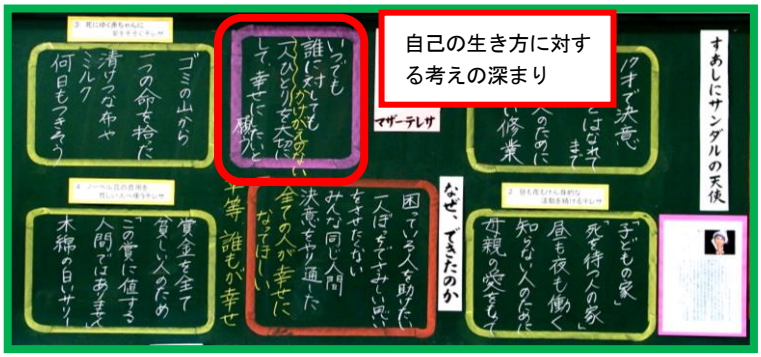
資料３０は，児童がマザー・テレサの生き方を自分に生かしたいと実感している割合である。９５％の児童が生かしたいと答えている。これは，強い憧れの対象となる人物であったことが，児童の生き方に対する考えを深めるために，大変有効であったためと考える。



【資料 30】マザー・テレサの生き方を生かしたい割合とその理由

ウ　深める問い

板書（写真１０）の中央に書いているような，主人公の生き方を児童に気付かせることができた。それは，中心発問後の深める問いによって，主人公の範例的な行為を支える心情に深く迫ることができ，児童に主人公の素晴らしい生き方を強く感じ取らせることができたためと考える。



【写真 10】主人公の生き方に対する考えの深まりを視覚化した板書

また，１８頁の資料２７のような児童の感想が出たことからも，深める問いは，主人公から他我

の心を自覚して，自己の生き方に対する考えを深める上で有効であったと考える。

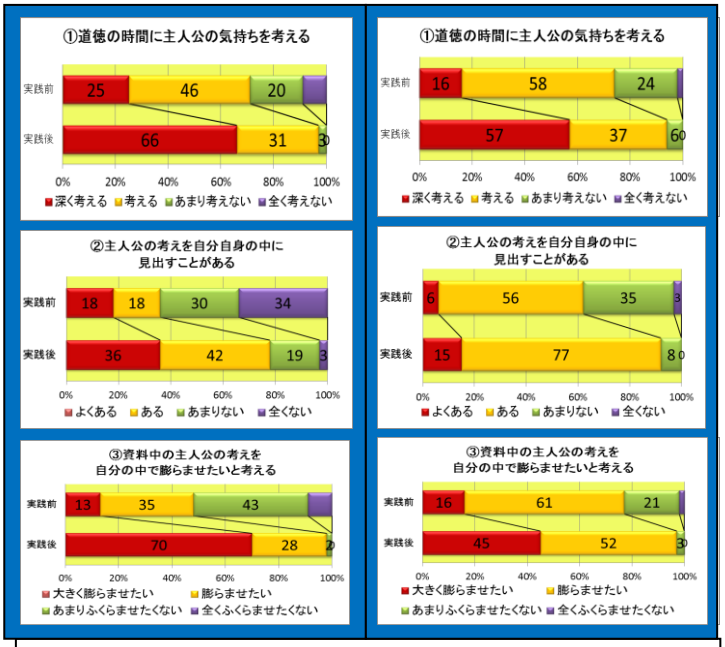
7　成果と課題

（１）児童の実態の変容より考察

資料３１は，授業実践をする前と実践後の児童の道徳の時間における実態の変容である。

① 道徳の時間に主人公の気持ちを考える児童の割合は４学年では，２６％増えて９７％，６学年では２０％増えて９４％となった。

② 主人公の考えを自分自身の中に見出す児童の割合は，４学年では４２％増えて７８％，６学年は３０％増えて９２％となった。



【資料 31】実践前と実践後の児童の変容（左４学年，右６学年）

③ 資料中の主人公の考えを自分ので膨らませたいと考える児童の割合は，４学年では５０％増えて９８％，６学年では２０％増えて９７％となった。

これらから，児童が，資料中の主人公の気持ちを考えるときには自分と重ねて考え，主人公から他我の心で自覚した想いを自分の中で膨らませた児童が育ったといえる。

（２）研究の成果と課題

資料３１の結果から，主人公の気持ちから他我の心を自覚し，自己の生き方に対する考えを深める児童を育てることができたということができる。これは，次の手立てが有効であったためであると考える。

① 「わたしたちの道徳」の活用の工夫

○ 一単位時間の授業の導入と終末に「わたしたちの道徳」の読み物部分を活用したことで，道徳の時間と生活をつなぐ役割を果たし，自分の実態や考えをよく見つめて資料に入ることができたり，学んだ価値を生活に活かそうとしたりする児童を育てることができた。

○ 事前や事後に「わたしたちの道徳」の書き込み部分を活用したことで，資料中の主人公の他我を理解するための見通しを持たせることができたり，生き方に対する考えを深めたりする児童を育てることができた。

② 生き方に対する考えを深めるための児童の実態に応じた資料選定の工夫

中学年では，身近で，主人公の他我の心や人を想う心の膨らみを感得しやすい資料，高学年で憧れの対象となる資料などの選定を工夫したことで，他我の心を自覚し生き方に対する考えを深めた児童を育てることができた。

③ 自己の生き方に対する考えを感得するための深める問いの工夫

場面に応じた深める問いによって，児童が主人公から他我の心を自覚したり，生き方に対する考えを深めたりすることができた。

課題として，「わたしたちの道徳」の活用方法の多様化がある。

「わたしたちの道徳」には，他にも児童を多面的に育てる有用性があると考える。その，活用方法をさらに研究し，日々の授業に生かしていきたい。

〈参考文献〉・文部科学省『小学校指導要領解説　道徳編』（平成２０年）
・押谷由夫，新宮弘識，上杉賢士『道徳の授業をひらく３・４年』（国土社）（平成６年）
・文部科学省「道徳教育の充実に関する懇談会」（平成２６年）